

## 渡辺家で織られた栃尾紬

### Record Tochio pongee made at Watanabe family

菊池 加代子<sup>1</sup>  
KIKUCHI Kayoko

阿部 充夫<sup>2</sup>  
ABE Mitsuo

吉田 勝幸<sup>3</sup>  
YOSHIDA Katsuyuki

キーワード：織物、栃尾紬、うち織、緋、着物  
Keywords : Textile, Fabric, Weave, Tochio pongee, Home weaving, Ikat, Kimono

Record Tochio Tsumugi (pongee) woven at Watanabe family living in Tochio, Nagaoka city, Niigata Prefecture. Women of the Watanabe family went from domesticated silkworms to yarn making, dyeing, weaving and tailoring at home

#### 1. はじめに

大学職員の渡辺孝幸さんとの立ち話で「うちでも栃尾紬を織っていたよ」と…。「是非みてみたい!」と見せて頂いた布がここに記録する栃尾紬である。これらは、新潟県(旧)栃尾市一之貝に暮らす渡辺家で家族や親戚の為に織られたものである。養蚕から糸作り、緋括り、糸染め、織り、仕立てまでを一貫して製作がなされた。

『栃尾紬』とは、栃尾郷全域にわたって農家の副業として生産されていた絹織物であるが、田之口の黄縞、森上の無地、栗山沢の黒地、黄格子、黄八丈、荷頃の千筋、赤谷の大柄、中野俣の鼠縞、一之貝の緋等と地域ごとの特徴があり<sup>注1</sup>、渡辺家の栃尾紬には、一之貝地区の特徴である緋のデザインを見ることができる。栃尾紬の資料は大変に少なく、一家族が家内消費のために制作した布の記録は皆無に等しくこの記録は貴重である。本稿では、主観を入れずに記録する。

#### 2. 製作者聞き書き

渡辺カウ様(1935年生まれ)に2016年10月4日学内にてインタビューをおこなった。

- ◎無地の反物以外は、義母の渡辺レイ様(1908年～1972年)が製作した。
- ・養蚕は、自宅の蚕部屋で春から秋まで2、3回行った。
- ・蚕を「ほこ様」と呼んでいた。



写真1 長岡造形大学図書館ショーケース展示

2016年11月10日撮影

- ・繭は、煙で蒸して保存。
- ・11月から4月始め頃までの農閑期に製作。
- ・糸繰りを「まけまけ」と言っていた。
- ・経糸は、一升杓に山盛りの量を湯にいれて糸繰りをした。
- ・真綿は、大繭<sup>注2</sup> 5個で角真綿1枚を作った。
- ・レイは十字緋が好きだった。デザインは自分で考えていた。
- ・もっとも細かい百緋（1列50個の緋文様が2段）を織ることができた。
- ・経糸の緋括りは、屋外で行った。
- ・染色は、無地の糸は染め屋さんに頼み、緋部分は自宅で「染め粉」を用いて染めた。
- ・織機は高機。6畳の部屋におさまる大きさ。蚕の時期は解体して、秋から組み立てて使用した。
- ・箆枠を付け替えて使用した。
- ・カウの技術は、渡辺家に嫁いってから習った。習った手順は、糸繰り→緋くびり<sup>注3</sup>→管巻き→機織り
- ・大変だったことは、管が解けたり、緋があわない事。
- ・白生地は、バツタン<sup>注4</sup>を使用して、朝4時から夜9時まででかか1日に一反を織った。
- ・1年間に緋反物3反、白生地8反位を製作した。
- ・白生地は、機屋に卸した。
- ・レイは晩年まで織っていた。死後は、機に残された糸をカウが織り栃尾紬の製作は終了した。



写真2 織機に座る渡辺レイ

渡辺家提供



参考写真2 栃尾地域で使用されていたバツタン織機<sup>注6</sup>



参考写真1 栃尾地域で使用していた織機<sup>注5</sup>



参考写真3 バツタン箆





写真3 渡辺レイ 自分用に制作して着用した着物  
幅 1240mm×長さ 1315mm



→写真4 拡大部分 織幅 355mm×長さ 480mm  
矢絰幅 25mm



写真5 無地着尺 織幅 370mm×長さ 18000mm



写真9 織幅 355mm×長さ 1160mm



写真6 織幅 367mm×長さ 225mm  
織幅 365mm×長さ 530mm

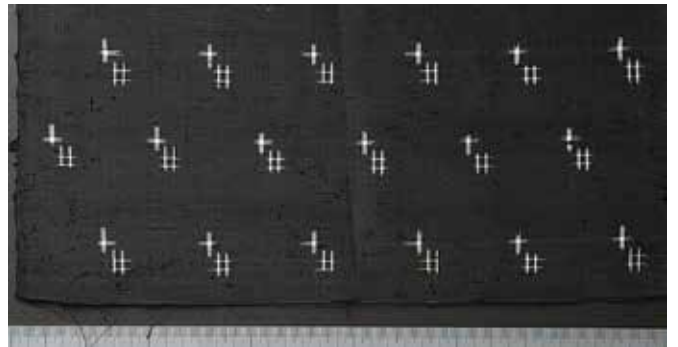


写真10 織幅 380mm×長さ 380mm



写真7 織幅 375mm×長さ 430 ~ 1235mm 不定形



写真11 織幅 365mm×長さ 580mm



写真8 織幅 365mm×長さ 188mm



写真12 織幅 356mm×長さ 130mm



写真 13 織幅 370mm×長さ 2400mm



写真 18 織幅 365mm×長さ 2100mm

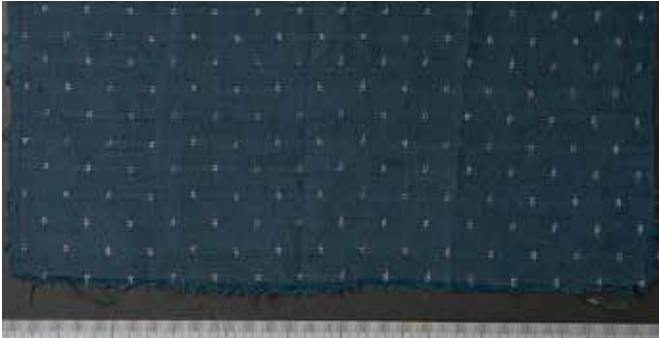


写真 14 織幅 370mm×長さ 235mm



写真 19 織幅 373mm×長さ 460mm



写真 15 織幅 365mm×長さ 115mm



写真 20 織幅 370mm×長さ 990mm



写真 16 織幅 370mm×長さ 255mm



写真 21 織幅 365mm×長さ 1065mm



写真 17 織幅 378mm×長さ 250mm



写真 22 織幅 370mm×長さ 290mm (長い所)  
\* 不定形 130mm (短い所)



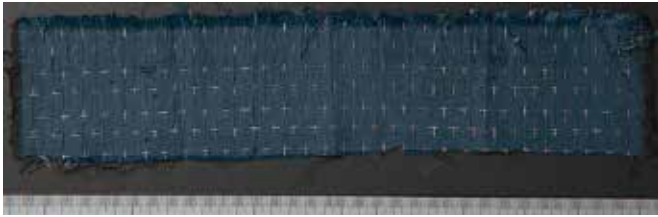


写真 23 織幅 370mm×長さ 85mm



写真 28 織幅 365mm×長さ 160mm



写真 24 織幅 368mm×長さ 58mm



写真 29 織幅 371mm×長さ 80mm



写真 25 織幅 360mm×長さ 57mm

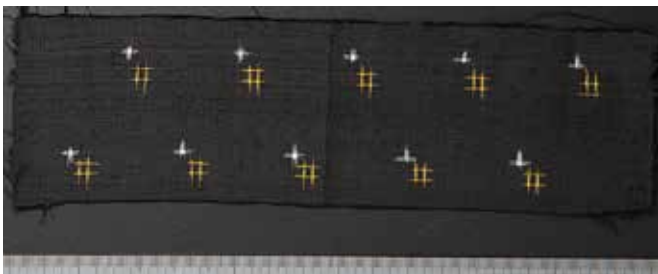


写真 26 織幅 370mm×長さ 110mm



写真 30 織幅 370mm×長さ 35mm



写真 27 織幅 185mm×長さ 505mm

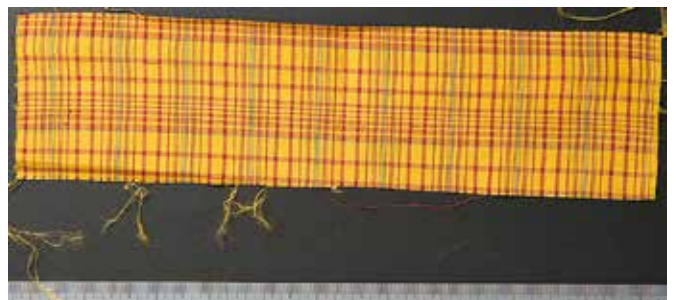


写真 31 織幅 360mm×長さ 93mm

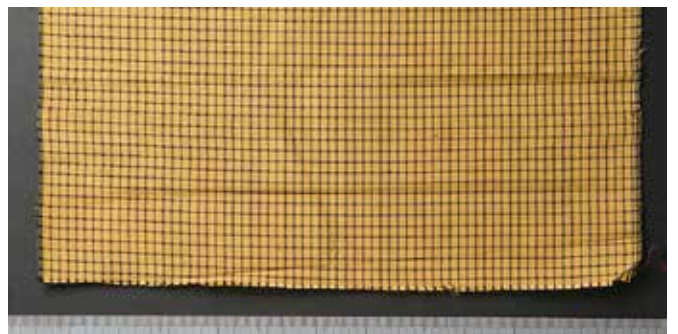


写真 32 織幅 365mm×長さ 1990mm

戦時中に織られた栃尾紬 3種



写真 33 織幅 356mm×長さ 475mm  
親戚の出産祝いの「ねんねこ」用



写真 34 織幅 360mm×長さ 1800mm  
在庫の糸を使用して制作した



写真 35 織幅 355mm×長さ 305mm

白生地 渡辺カウ制作  
織幅 373mm×長さ 15335mm



写真 36 部分 原寸

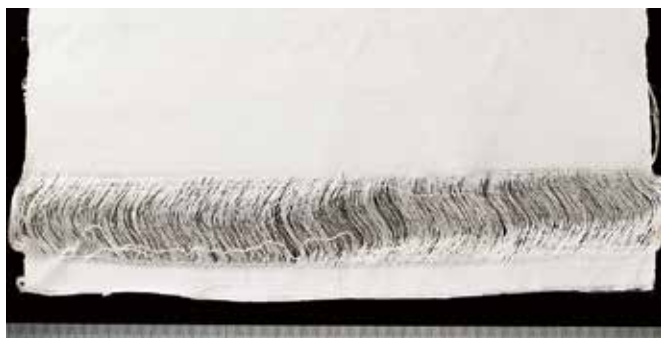


写真 37 織り始め 織幅 373mm×長さ 15335mm



試織

山帯 (野良着に使用した)



写真 38 織幅 365mm×長さ 230mm



写真 39 織幅 368mm×長さ 185mm



写真 40 織幅 374mm×長さ 218mm



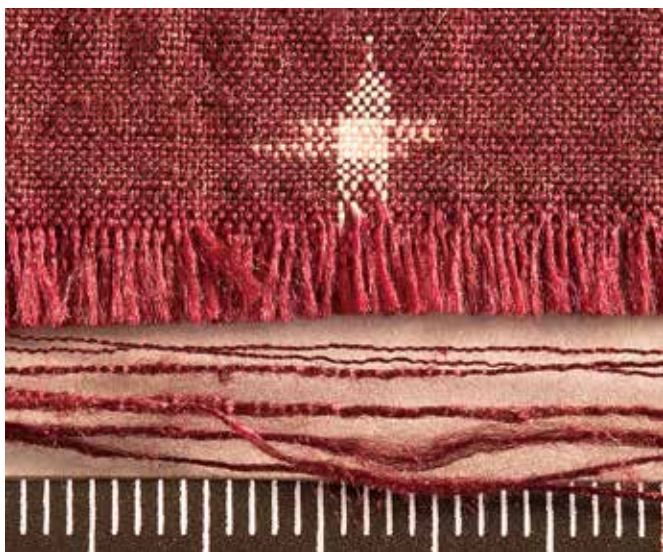
写真 41 幅 280mm×長さ 180mm



写真 42 織幅 133mm×長さ 1810mm  
紐の長さ 375mm 2本



◎布と糸



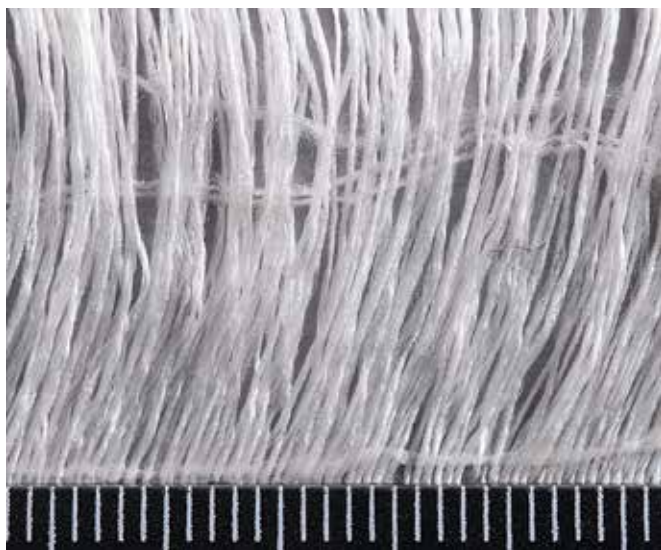
拡大写真1 300%



拡大写真3 300%



拡大写真2 300%



拡大写真4 300%



写真 43 孫娘の為に制作した着物 サイズ  
幅 1208mm×長さ 1385mm

拡大部分  
幅 194mm×高さ 154mm



写真 45 孫娘の為に制作した着物  
幅 1230mm×長さ 1533mm

拡大部分  
幅 194mm×高さ 154mm



写真 44 羽織  
幅 1263mm×長さ 1008mm

拡大部分  
幅 122mm×高さ 82mm



写真 46 孫娘の為に制作した着物 白生地にて型染め  
幅 1259mm×長さ 1498mm

拡大部分  
幅 193mm×高さ 154mm





写真 47 綿入れの上に羽織を着用



写真 48 羽織 幅 1256mm×長さ 1065mm



写真 49 綿入れ 幅 636mm×長さ 947mm

拡大部分  
幅 161mm×高さ 121mm



写真 50 幅 170mm×長さ 3760mm



写真 51 写真 50 部分カット

## 謝辞

素晴らしい栃尾紬を作られた渡辺レイ様とカウ様に感謝と尊敬の念を捧げます。また、この出会いを作ってくくださった大学職員の渡辺孝幸様、貴重な着物をお貸しくくださった渡辺家、孫娘の外山成子様、ありがとうございました。

織機の写真撮影には、長岡市栃尾産業交流センター センター長佐藤認様にご協力を頂きました。

ここに御礼を申し上げます。

## 注釈

- <sup>1</sup> 栃尾市史別巻 750p 「田之口の黄縞、森上の無地、栗山沢の黒地、黄格子、黄八丈、荷頃の千筋、赤谷の大柄、中野侯の鼠縞、一之貝の緋等殆ど栃尾郷全域にわたって農家の副業として生産されていた。」
- <sup>2</sup> 玉繭のこと。2頭の蚕が一つの繭を作ったもの。大繭ができた時に真綿を作った。
- <sup>3</sup> 緋「くくり」の事を新潟県の方言で「くびり」と言う。
- <sup>4</sup> 飛び杼、Fly shuttle
- <sup>5</sup> 長岡市農業資料館に保管されている織機を撮影した。  
サイズ幅 1050 × 長さ 2910 × 高さ 1710
- <sup>6</sup> 長岡市農業資料館に保管されているボタン織機を撮影した。  
サイズ幅 1050 × 長さ 2370 × 高さ 1710

## 参考文献・資料

- 1) 栃尾市史編集委員会：栃尾市史，栃尾市
- 2) 安藤やす江著：うち織 縞の着物ー養蚕農家の手織の着物ー，瑤籃社，2002
- 3) 長岡市ホームページ  
<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/kankou/rekishi/shiseki/tumugi.html>
- 4) テックナガオカホームページ  
<http://www.tech-nagaoka.jp/traditional/trad005/>

## 執筆者分担

菊池 加代子 監修及び執筆  
阿部 充夫 撮影・画像処理指導監修  
吉田 勝幸 撮影及びレイアウト